

【史料紹介】

三河国八名郡岡部藩半原陣屋御用状留（八）

日本史学専攻近世近現代史ゼミ

前回から引き続き、天保十二年（一八四一）の岡部藩半原陣屋から江戸屋敷の元締宛および年寄宛の御用状留を史料紹介していく。

「御元締衆御用状留」の内容をみると、まず幕府との関係では、①前号でも紹介した大御所（前十二代将軍家斉）の死去についての鳴物停止が全面解除されたことが伝えられている【丑八番】。②藩主が日光祭礼奉行の勤めを無事終え江戸に帰り、將軍への挨拶も済ませたことが伝えられている【丑七番】。③藩主が在所岡部へ参勤交代を幕府から許可された旨が陣屋へ伝えられている【丑十二番】。なお、①②③とも領内村々へも伝えられている。

藩江戸屋敷と陣屋との関係では、③前号から続いている案件である高徳院の十七回忌にあたり、年寄・菊池安太夫が藩主の代拝として岡部へ行った旨が心得として半原にも伝えられている【丑七番】。また半原の洞雲寺でもこの法

事が行われ、茶湯料が献納されている【丑七・十番】。④年寄菊池安太夫が咎を請け、半原に蟄居することとなり、居住する屋敷の改修普請について連絡のやりとりが行われている【丑十二番】。

最後に藩・陣屋と支配村・領民との関係では、前号から続いている案件や同じ内容のものでは、⑤日光祭祀奉行に関わる村内への高役金の臨時賦課【丑七・九・十・十二番】、⑥借入金として、浅見与兵衛ほか三名から合計二百五十兩ほかを調達【丑七・十・十一番】、⑦同じく浅見与兵衛から、この借入金とは別に、雑用金不足のため十兩を借入【丑十一番】、⑧領民の宗門帳外し【丑八・九・十・十二番】、⑨村役人等の交代【丑八・十一番】、⑩村内の火事報告【丑八・十番】、⑪村内の定式普請【丑八・十一番】、⑫天気・気候や作況の報告【丑七・八・九・十・十一番】などがある。⑬新たな案件としては、二川宿の加助郷免除願いについて、賀茂村が吉田領二十六ヶ村と一緒に道中奉行に願い出たいという申し出が藩になされている【丑九・十番】。

「御元締衆御用状留」と「御年寄衆御用状留」を比較すると、先号と同じく基本的には多くの事案が両方ともに書かれている。「御年寄衆御用状留」の方に記載されていないのは⑧村役人等の交代で、これも先号と同じである。また⑦の雑用金借入も書かれていない。⑥の借入金は多額であり藩の借入であり、一方⑦は少額で陣屋の借入なのであるか。ただ浅見に渡す証文には年寄の証印が必要なので、年寄が知らないというわけではないようではある。⑬二川宿の加助郷免除願いについても、「御年寄衆御用状留」には記載されていない。また④咎を請けた年寄・菊池安太夫が居住する屋敷の普請についての記載も、年寄の処罰の案件なので当然ではあるが「御年寄衆御用状留」には書かれていない。

本史料は、浅井奈美・石黒慎吾・岩井雄紀・工藤裕加・小島海斗・酒井良汰・真田侑輔・下条あゆみ・杉村美咲・

鈴木重寿佳・鈴木諄平・竹内香織・花井佑佳・藤島夢花・水谷網規が史料翻刻と説明文執筆のための資料調査・草稿作成を行い、史料翻刻の点検および説明文章稿のとりまとめと最終執筆を神谷智がおこなった。

(天保十二年御元締衆御用状留)

丑七番

去ル二日付御用状同八日到来致拜見候。先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悦御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、殿様御儀 日光御用無御滞被為済、御道中御機嫌能去月十九日 御帰府、翌廿日右御礼も無御滞被為済候旨、
為心得被仰聞致承知
御同意恐悦奉存候。

一、右二付御自分様も御用向無御滞被為済御供、被成御帰府候段御吹聴被仰聞致承知、目出度奉存候。

一、安太夫殿岡部表へ

御代香ニ付、去月廿五日當表被致出立候間、為心得被仰聞候旨致承知候。

一、日光 御用ニ付、三及御領分村々へ高役金上納方御書付壱通、御年寄衆被成御渡候間被遣之候条、落手宜敷取計可申。尤當夏ハ上納方捨別 箱 御勘弁も被成下候義ニ付、其段村々相心得候様可申渡旨被仰聞致承知候。

右者去ル二日付御用状貴報ニ御座候。御入記之通受取申候。

一、前条

殿様御儀無御滞御被遊御帰府、右御礼も是又無御滞被為済候段、御領中へ相觸申候所、為恐悦御領内村役人・御用

働・御金用勤・其外寺社之面々追々御役所へ罷出、恐悦申上候義ニ御座候。此段得貴意候。

一、前条高役金被 仰付方御書付、落手拝見承知仕、則村々呼出し、御書面之趣を以申渡、請證文申付、今便為御一覽致進達候。御落手宜敷御取計可被下候。尤右被 仰付方格別之

御憐愍一同難有旨御礼申上候義御座候。此段御承知被下、御年寄衆へも宜敷被仰伸可被下候。
之趣具ニ申渡候所

一、去月廿九日

高德院様十七回 御忌御相當ニ付、御法事於洞雲寺ニ執行御座候間、御先拵之通御茶湯料金百疋相備^世之、拙者共為拝礼罷越、無滞相濟申候。此段得貴意候。

一、右御茶湯料御勘定組窺書取調、本紙写共今便致進達候。御落手宜鋪御取計可被下候。

一、御内状を以被仰聞候御借入之儀、談相整候ニ付、浅見与兵衛分金百五拾両、林平八・林徳左衛門両人分金百両、都合式百五拾両調達相納候ニ付、則別紙差出證文之通、今便道中四日限を以差立申候。着之上御落手宜敷御取計可被下候。右差出證文本紙写共致進達候。御落手可被下候。

一、右ニ付浅見与兵衛外両人へ渡證文取調、本紙式通写相添、今便致進達候。御落手宜敷御取計可被下候。

一、當表季候^{コウ}今以日々雨天、折々大雨も相交、不時之寒暖等ニ而不順氣ニ御座候。併田方植附ハ水沢山^ニ、上郷ハ近々相濟可申趣ニ御座候。尚追而委細可^{得貴意候}

右之段為可得貴意、如斯御座候。以上。

丑五月十五日 両人

石川殿

入記

一、高役金申渡請證文本紙

壹通

一、御茶湯料御勘定組伺書本紙写共

貳冊

一、浅見与兵衛殿御借入金百五十両證文本紙写

壹通

一、林平八殿御借入金百両證文本紙写

壹通

一、下シ金差出證文本紙写

壹通

一、御自分様へ拙者共の内状

壹封

丑八番

去月十八日付御用状同廿五日到來致拜見候。甚寒之節御座候得共、先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悅御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、從是差立候六番御用状相達、被成御披見候由。貴報被仰聞候趣致承知、事済候義者再貴報致文略候。

一、右便得貴意候趣、御年寄衆へ可被仰伸義者、夫々被仰伸被下候由。

一、賀茂村百姓徳十義婦住申渡受證文壹通、同村百姓清六宗門帳外申渡請證文壹通、都合式通御年寄御一覽相濟候ニ付、

御返却致落手候。

一、賀茂村大川通春定式御普請御入用御勘定組伺書、御證印濟ニ付、被遣之被下、落手致し候。

一、鵜飼島村庄屋新平退役願^并同人跡庄屋役組頭勘九へ被^仰、且中宇利村庄屋清吉悻清四郎へ庄屋見習被^仰付方之儀御聞濟^ニ付、其通取計可申旨被^仰聞致承知候。

一、安太夫殿岡部表御用向相濟、去月六日被致婦府候間、為心得被^仰聞候旨致承知候。

一、從^一、公儀鳴物不苦旨被^仰出^ニ付、御書付[■]■^一壹冊、御年寄衆被^成御渡候^ニ付、被^遣之候間、落手可致旨被^仰聞、則到來致落手候。

右^者去月十八日付御用状貴報^ニ御座候。御入記之通り受取申候。

一、前条鳴物不苦旨被^仰出候^ニ付^而之御書付、落手拜見承知仕、則例之通取計、御領中^江相觸申候。

一、前条鵜飼島村庄屋新平退役^并同人跡^ト組頭勘九へ庄屋役、中宇利村清吉悻清四郎へ庄屋見習被^仰付候段、銘々呼出し申渡候處、何れ^茂難有仕合奉存候旨申之、別段為御礼罷出申候。此段得貴意候。

一、暑中為伺御機嫌、御領内村役人・御用働・御金用勤・其外寺社之面々追々御役所へ罷出申候。此段得貴意候。

一、當表季候之儀、^{先便}得貴意候後も弥雨天相續、いつ快晴^与も相見へ不申候。畑方諸作相痛候趣相聞へ、一統難洪仕候間、評儀之上、去月十九日^ハ洞雲寺へ申達、一七日之間五穀豐熟之御祈祷被^仰付候積取計候處、同廿日^ハ天氣立直り、

廿一日^ハ快晴^ニ相成、一統相歎申候。田方植附之儀も先便申上候後、賀茂村・塩沢村も無滞相濟、皆畑鵜飼島・江村両村も畑方手入耕作も無滞相濟候段届出申候。此段得貴意候。且又右之通廿一日^ハ快晴^ニ御座候處、廿五日^ハ昼後^ハ俄^ニ雷鳴強く大雨有之、大小川々一旦^ニ出水仕心配仕候處、川筋通捨別之破損等も無御座、尤黒田村之儀^ハ別^レ降雨強く、山水夥敷、田面一面^ニ相成、川筋土手打越、押堀^ニ相成、又^著畔押崩、苗も流失仕候向多分出來候旨届出、見分相願候^ニ付、得^与承札之上、先つ早々^ニ手入之儀申達し、成丈ヶ出精仕、実^ニ無余儀分^ハ取調可申出旨申渡し置

候間、過半者手入^二而立直り可申哉^二も奉存候得共、いつれ御損毛^二者御座候得共、何卒捨別多分之儀無御座候様仕度奉存候。塩沢村之儀も右同様^二而、水損変地出来仕候。尤是者一ヶ所^二而多分之儀^二者無御座候。尚追々取調可得貴意候、先^二此段得貴意置候。畑作之儀者當年餘程六ヶ敷、別而木綿者先達^二而中之長雨^二而、場所^二寄^二根腐候所へ、俄^二照出し、大痛^二相成、無據取捨候^二而、胡麻^二打蒔附候分多分有之趣^二相聞へ、其餘も右^二准し出来劣候様子^二御座候。何卒此うへ雨次宜敷、可成^二出来候様奉祈候。右廿五日大雨後照方^二相成、誠^二敵暑難堪相照見^二へ申候。殊^二西風強く、田方日増^二水拂底^二相成、賀茂村^二并下宇利・半原・中宇利^二溜池分水願出申候。うんかも相見^二へ候趣^二而、虫送り等届出申候。何卒^二近日降雨御座候様奉祈候。

一、去月廿四日夜八つ時頃、賀茂村百姓八左衛門居毛^二出火仕、本家・釜家・灰部屋・屑屋・物置共不残焼失仕候段村役人届出候^二付、早速見分之上、當人^二并親類・組合・隣家・村役人一同呼出し、出火之始末吟味仕候処、全手過^二而、自火^二相違無御座相聞へ、且人馬怪我類焼等も無御座、^{今程}其外怪敷筋も無御座相聞へ申候間、先格を以取計相済申候。依之御届書、其外一件書物相添、御元^二衆迄差出申候間、御落手御披見御承知被下、宜敷御取計可被下候。右^二者類焼等も無御座、御同意奉存候。

一、下宇利村百姓源六弟乙作^二与申もの、生得身持不宜もの^二御座候所、去年四月村方出奔、當時永尋もの^二御座候所、此程宗門帳外願出候^二付、吟味仕候処、無據趣相聞へ申候間、則別紙伺書取調、本紙写共今便致進達候。御落手委細^二者書面^二而御承知被下、宜敷御取計可被下候。此もの義出奔後、不宜風聞等も有之、迎も帰住御百姓相成候もの^二無御座候間、伺之通御聞済^二相成候様致し度、宜しく御合御取計可被下候。

右之段為可得貴意、如此御座候。以上。

丑六月八日 右兩人

石川殿

一、賀茂村百姓八左衛門出火之儀御届書

壹冊

一、右同断吟味口書

壹通

一、右同断御免申渡受證文

壹通

一、下宇利村百姓源六弟乙作宗門帳外伺書本紙写共

貳冊

一、御自分様へ拙者共今内状

壹封

丑九番

以飛札致啓上候。先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悅御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、日光 御祭礼御奉行被蒙 仰候ニ付、當御領分村々高役金上納方申達候処、當六月納之分金六拾貳両壹朱・永式

拾八文五分五^厘り取立之、別紙差出證文之通、今便道中四日限を以差立申候。着之上御落手宜敷御取計可被下候。右

差出證文本紙写并高役金割賦寄書拔老冊共致進達候。御落手可被下候。

一、賀茂村役人願出候者、東海道二川宿傳馬定助郷相勤来候所、近來御定人馬之外呼入多難決仕候ニ付、吉田様御領

分式拾六ヶ村一同相談之上、宿方へ再三及懸合、御定通り之人馬遣方之外、差出間敷段懸合候得共、彼是申立候次

第^アも有之、兎角埒明不申候^ニ付、此度無據出訴仕、道中御奉行所^江相願候積り、一同相談決着致し候旨、依之賀茂村之儀も同様相願度旨、尤一村別^ニ出訴仕候^{而者}、彼是雜費^種も相懸り、甚以難洪之儀^ニも御座候間、近々吉田様御領分^ノ惣代^ノもの出府致し候間、吉田様御役場へ御頼入被下、御同領村々願書之内へ差加^ニ相成候様被成下度旨願出候間承札候処、無據筋合^ニ相聞へ、且吉田領^分出訴願書下案写も差出し致一見候所、無筋之願面^ニも無御座、殊^ニ吉田領村数も多、是迄都^而多分^ニ付、万事計ひ来り候事^ニも有之、此度迎も一村計^右之願^外候^申申^不參、実者當時之姿^{而者}、捨外^ノ之人馬之遺方多、難洪^者相違無御座義、旁申立之次第も無據相聞へ申候間、吉田様衆へ別紙之通頼入^{候所}、尚又別紙^通之通承知之趣返礼到來致し候間、此段御承知被下、尚又於御表^ニ、伊豆守様衆へ御頼被仰込候^而可然義^ニ御座候ハ、宜敷御取計可被下候。依^而願書下案写^志冊^并吉田様衆へ文通写^志冊、同所^分返礼^志通共、為御一覽致進達候。御落手宜しく御取計可被下候。尤御年寄衆^江者不申上候間、御取繕宜敷被仰伸可被下候。

一、當表之儀先得得貴意候後、弥照方^ニ相成、諸向水拂底^ニ相成、田方之儀も追々干方^ニ相成、村々^分雨乞之儀、度々届出候所、去ル十二日少々祈雨御座候所、何分降足り不申候。尤日々催^者御座候へ共、潤雨無御座候。何卒近日程能一雨御座候様奉折候義^ニ御座候。且うんか之儀次第相増、度々虫送り^并為祈念百万遍等届出候得共、兎角退兼候^ニ付、遠及秋葉山之火^ヲ迎、蝗送り致し候村方も有之、精々尽し候得共、未退散不致趣^ニ御座候間、今少シ見合、上^分も雨乞^并うんか消亡之御祈禱被 仰付候様^ニも取計可申哉^与内評仕居候義^ニ御座候。何卒く、近雨御座候様致し度奉存候。此段得貴意候。

右之段為可得貴意、如斯^ニ御座候。以上。

丑六月十五日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

石川清兵衛殿

入記

一、高役金差出證文本紙写

壹通
壹冊

一、右同断割賦帳寄書拔

壹冊

一、二川宿傳馬之儀ニ付道中御奉行所へ願書下案之写

壹冊

一、右一条ニ付吉田様衆へ文通写

壹冊

一、右同断吉田様衆へ返礼

壹通

丑拾番

去月廿六日付拾壹番御用状相達致拜見候。先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悦御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、從是差立候七番・八番・九番御用状相達し、被成御披見候由。貴報被仰聞候趣致承知、事済候義著再貴報文略致し候。
一、右便得貴意候趣、御年寄衆へ可被仰伸義ハ、夫々被仰伸被下候由。

一、高德院様十七回 御忌御相當ニ付、洞雲寺へ相備候御茶湯料御勘定組同書本紙写共致進達候義ニ付、得貴意候趣

御承知、御落手被下候由。右者御年寄衆御證印御取、被遣之被下、致落手候。

一、御借入金式百五拾兩、内百五拾兩淺見与兵衛調達、百兩林平八・林徳左衛門調達ニ付、渡證文式通写相添致進達候義ニ付、得貴意候趣御承知、御落手被下候由。右者御調印之上、御年寄衆御證印御取、被遣之、落手いたし候。

一、下宇利村百姓源六弟乙作宗門帳外何書致進達候義ニ付、得貴意候趣御承知、御落手被下候由。右者御年寄衆御聞濟之御下知書御證印御取、被遣之被下、落手致し候。

一、日光御用高役金當六月納之分取立之、金六拾式兩壹朱・永式拾八文五分五り差下し、右差出證文本紙写共致進達候義ニ付、得貴意候趣御承知、御落手被下、無滞右金相納候ニ付、則差出證文御年寄衆御受取之御證印御取、被遣之、致落手候。

一、前条御借入金式百五拾兩差下、右差出證文本紙写共致進達候義ニ付、得貴意候趣御承知被下候由。右金無滞着相納候ニ付、差出證文壹通御受取之御證印被成御取、被遣之、致落手候。

一、賀茂村百姓八左衛門居宅台出火一件、吟味之上、御届書其外共書類御一覽として致進達候義ニ付、得貴意候趣御承知、御落手被下候由。

一、二川宿傳馬定助郷吉田領式拾六ヶ村一同相談之上、賀茂村も右吉田領願書之内へ差加り、出訴願之儀ニ付、得貴意候趣御承知被下、於御表ニも御留主居衆ハ被及御懸合候所承知ニ付、左様相心得可申旨被仰聞致落手候。

右者去月廿六日付拾壹番御用状貴報ニ御座候。御入記之通受取申候。

一、前条下宇利村乙作宗門帳外何御聞濟ニ付、則親類・組合・其外共呼出し、願之通當丑年ハ帳外御聞濟之趣、御下知之趣を以申渡し候。請證文申付、本紙壹通今便致進達候。御落手宜しく御取計可被下候。

一、當表之儀先得貴意候後、潤雨無御座、一統水拂底ニ相成、田方千方も出来、其上うんかも次第ニ相増、村方ニ而も折袴■并水行届候分ハ油を流し抔仕、精々尽し候ニ付、上も雨乞并除蝗御祈袴洞雲寺へ兩度申達し、執行御座候後、降雨も有之、當時至極順氣ニ相成、一統相歛申候。うんかも此ニ薄らき候趣御座候。畑方も先達中与ハ見直し候趣ニ付、何卒此所ニ而一濕り御座候様致度奉存候。去ル十七日二百十日ニ御座候所、無難靜鑑ニ相濟、一統相歛申候。此段得貴意候。

右之段為可得貴意、如斯ニ御座候。以上。

丑七月廿二日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

石川清兵衛殿

入記

- 一、下宇利村帳外申渡受證文 壺冊
一、御自分様へ拙者共々内状 壺封

丑拾壺番

以飛札致啓上候。先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悦御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、賀茂村大川通秋定式御普請之儀願出、見分吟味之上、無據分御普請被^{候二付} 仰付候積り、并字金丸惡水吐板流、水破御修復相願候^{二付}、是又見分吟味致し候所、御捨置^三相成かたく御座候間、御普請被^三 仰付候積、兩様共大積一紙^三取調、今便致進達候。御落手御披見御承知被下、宜しく御取計可被下候。

一、鶉飼寫村組頭勘九、先達^而庄屋役被^三 仰付候^{二付}、同人跡組頭之儀、百姓乙八^与申ものへ被^三 仰付可然奉存候。此段御承知被下 ■思召も無御座候ハ、被仰付之儀可申渡奉存候間、御問合得貴意候。

一、江村組頭市左衛門老衰^{二付}、退役相願申候間、是^者願之通被仰付、同人悴へ跡役被^三 仰付可然奉存候。是又思召相伺申候。

一、七月中御雜用御不足^{二付}、浅見与兵衛^六金拾兩御借入^三取計申候。左様御承知可被下候。右^三付同人渡證文取調、本紙写共今便致進達候。御落手宜しく御取計、御證印濟被遣可被下候。

一、當表作方之儀、先便得貴意候後、潤雨も有之、田方も見事^二出穂仕、畑方之儀も粟・稗ヶ成^三取入、木綿之儀も大^二見直し候所、吹方^二差懸り候頃^六雨天勝^{二而}、一統迷惑致し候。一体最初^六小出来之上、大体之儀故、木綿^者餘程違作仕候。併先つゝ願筋等も無御座、大悦奉存候。先つ當年^者無難^二御取納可相成^与恐悦奉存候。併米場^者何分下落之風聞^二御座候。何卒程能参り候様仕度奉存候。

右之段為可得貴意、如是^二御座候。以上。

丑九月卅日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

石川清兵衛殿

番外

以飛札致啓上候。秋冷之節御座候得共、弥御堅固被成御勤役、珍重奉存候。當方都而相替儀無御座候。然者當丑御拂_{百二十五枚}ニ相用候米切手取調候間、御取メ方押切為御調印、今便差立申候。御落手宜しく御取計、御調印相濟候ハ、早速御返却被遣可被下候。

右一条為可得貴意、如斯御座候。以上。

丑九月七日

兩人

石川殿

丑拾貳番

當月六日付御用状大井川差支着_ニ而、同十三日到来致拜見候。先以殿様益御機嫌能被成御座、恐悅御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、從是差立候拾番御用状相達、被成御披見候由。貴報被仰越候趣致承知、事濟候儀者再貴報致文畧候。

一、右便得貴意候趣、御年寄衆へ可被仰伸儀者、夫々被仰伸被下候由。

一、下宇利村乙作宗門帳外申渡受證文彙通、御年寄衆御一覽濟ニ付、御返却致落手候。

一、安太夫事、今度重キ御咎被 仰付、去七日御地出立ニ付、右委細之儀者御年寄衆分申可參ニ付、別段不被仰越候。着之上宜敷取計可申旨承知いたし候。右一条何共御同意氣之毒ニ奉存候。

一、右ニ付被下御長屋之儀者、渡辺義平次へ被下候表御長屋被下候由。勝手之方者一昨年取拂ニ相成候義与御承知被成候。

則別紙繪圖壹枚被遣候ニ付、可然取計可申旨、尤家根ハ枚皮葺、柱者枚丸太へ面を付、石居立之事ニ御座候由。此外者石仕様ニ准シ、捨別御物不掛様取計可申旨承知いたし候。且又右繪圖通、聊無相違と申訊ニ者無御座候由。其節之模様ニ寄、柱立方等少々差畧可致旨、委細承知いたし候。

一、先達而致進達候日光御用ニ付高役金受證文壹通、并賀茂村百姓八左衛門出火一条受書式通、御年寄衆御一覽相濟候ニ付、御返却被成、落手いたし候。

一、殿様御儀御老中様方御連名之御奉書御到来、去月十五日御登城被遊候處、御在所江之御暇被為蒙仰、恐悅御同意奉存候。此段為心得被仰越承知いたし候。

右者當月六日付拾貳番御用狀貴報ニ御座候。御入記之通り受取申候。

一、前条

殿様御儀御在所江之御暇被為蒙仰候段、恐悅御同意之御事ニ奉存候。右ニ付例之通御領中へ相觸申候処、村役人御用働・御金用(勤親)・寺社之面々追々御役所へ罷出申候間、此段得貴意候。

一、安太夫事、去ル七日御地出立二面、一昨十三日上下共道中無滞着いたし候ニ付、此段得貴意候。

一、右同人へ被下御長屋勝手方御普請之儀ニ付、御繪圖面以被仰越候趣致承知候。右者被仰聞候ニ随ひ取計相渡可申。猶追々可得貴意候。左様御承知可被下候。

右之段為可得貴意、如是ニ御座候。以上。

丑九月十五日 兩人印

石川殿

入キ

一、御自分様へ拙者共今内状 壹封

(天保十二年御年寄衆御用状留)

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

五月

橋本又兵衛
山本茂左衛門

判

朝 只之進様

尊書拝見仕候。

殿様御儀 日光御祭礼被為濟、御道中無御滞去月十九日被成

御帰府、翌廿日右御礼茂無御滞被為濟、恐悅之御事ニ御座候。此段為心得被仰下承知仕候。右御請為可申上、以愚

札如斯ニ御座候。恐惶謹言

五月

右兩人
判

右同人様

一筆啓上仕候。

殿様御儀 日光御祭礼被為濟、去月十九日被遊 御帰府、翌廿日右御礼茂無御滞被為濟候段承知仕、恐悅至極奉存候。
此段為可申上、捧愚札候。恐惶謹言

五月

長谷川時之助
橋本又兵衛
山本茂左衛門
判

朝 只之進様

一筆啓上仕候。然者御手前様御儀今般 日光表御供正無御滞被為濟、道中無御滞被成御帰府候段承知仕、目出度御儀奉存候。右御歎為可申上、捧愚札候。恐惶謹言。

五月

橋本又兵衛
山本茂左衛門
判

右御同人様
参人々御中

一筆致啓上候。然者御自分様方日光表江之御供無御滞被為濟、道中無御滞被成御帰府候段、目出度奉存候。右御歛為可得貴意、如斯御座候。恐惶謹言。致承知

五月 右兩人

判

福蔭周治様
石川清兵衛様

参人々御中

去ル二日之尊書同八日到来拜見仕候。然者今般

日光御用ニ付、三州御領分村々高役金被 仰付方之儀ニ付御書付忝通、御元ノ衆江被成御渡候間、落手仕候ハ、御書面之通取計取計可申旨被仰下奉畏、則御同人ノ御書付到来落手仕候。

一、先便被仰下候通

高德院様御年回ニ付、為

御代香安太夫様御儀、去月廿五日御表御出立、岡部表江被成御越候間、為心得被仰下候旨承知仕候。

一、右之外御用向之儀者御元ノ衆ノ可申参候間、可得貴意旨被仰下、則申参候条承知仕候。

一、前条當御領分村々江被 仰付候高役金御書付落手拜見承知仕、則御書面之趣を以村々一同呼出シ申渡、請證文申付、今便御元ノ衆迄差出申候。尤右者拾別

御憐愍之被 仰付、方ニ冊一同難有奉存候旨申之候義ニ御座候。此段申上候。

一、殿様御儀 日光御用無御滯被為濟、被遊御帰府、右御礼茂無御滯被為濟候段、御領中へ相觸申候処、為恐悦御領内村役人・御用働・御金用勤・其外寺社之面々追々御役所へ罷出、恐悦申上候義ニ御座候。此段申上候。

一、去月廿九日

高德院様十七回 御忌御相當ニ付、於洞雲寺御法事執行御座候間、御先拾之通御茶湯料金百疋相備之、私共為拜禮罷越、無滯相濟申候。此段申上候。

一、御元メ衆メ懸合申參候ニ付、金式百五拾両今般御借入之儀談相整、浅見与兵衛今百五拾両、林平八・林徳左衛門今百両、都合式百五拾両調達相納候ニ付、則今便別紙差出證文之通、道中四日限を以差立申候。着之上御請取可被成下候。右差出證文之儀ハ御元メ衆迄差出申候。尚委細者御同人迄申候間、御承知可被成下候。

一、當表季候今以雨天相續、折々大雨も相交り、不時之寒暖等御座候而不順氣ニ御座候。併田方植附ハ水沢山ニ而上郷ハ近々相済可申趣ニ御座候。尚追々委細可申上候。

一、右之外今便御用向之儀ハ御元メ衆迄委細申候間、可被伸条御承知可被成下候。
一、右之段御受旁為可申上、如斯御座候。以上。

五月十五日 兩人

朝 只之進様

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

六月

橋本又兵衛
山本茂左衛門

判

菊 安太夫様

一筆啓上仕候。甚暑之節御座候得共、殿様益御機嫌能被遊御座、恐悅至極奉存候。暑中為可奉伺御容躰、捧愚札候。恐惶謹言。

六月

長谷川時之助
右兩人

判

右御同人様

一筆啓上仕候。甚暑之節御座候得共、御手前様弥御勇健被成御勤仕、珍重御儀奉存候。暑中御安否承知仕度、以愚札如斯御座候。恐惶謹言。

六月

右兩人

判

右御同人様

参人々御中

一筆啓上仕候。然、御手前様御儀、岡部表御用向被為濟、御道中無御滯去月六日被成御帰府候段承知仕、目出度御儀奉存候。右御歛為可申上、以愚札如斯御座候。恐惶謹言。

六月 右兩人
判

右御同人様
參人々御中

一筆啓上仕候。然者御手前様御儀、御痔疾^ニ而御引込被成候段承知仕、嘸々御難洪之御儀奉恐察候。此節御容躰如何被為在候哉、折角御加養被成候様奉存候。右御容躰承知仕度、以愚札如斯^ニ御座候。恐惶謹言。

六月 右兩人
判

朝 只之進様

一筆啓上仕候。甚暑^{ジシヨ}之節御座候得共、各様弥御堅固被成御勤役、珍重奉存候。暑中御見舞為可得貴意、如斯御座候。恐惶謹言。

六月 右兩人
判

福嶋周治様
吉野六郎左衛門様
石川清兵衛様
中村貞様
豊泉善左衛門様

参人々御中

去月十八日之尊書到来拜見仕候。然者從是去々月廿六日付を以進達仕候書状相届、御披見被成下、為尊答被仰下候趣承知仕、尊答^ニ而事相濟候義者再御請不申上候。

一、鳴物不苦旨^ニ付御書付卷冊、御元^ノ衆江被成御渡候間、落手仕ハ、例之通取計可申旨被仰下承知仕、則御同人^ノ到来落手仕候。

一、賀茂村大川通春定式御普請御入用御勘定組何書卷通、御元^ノ衆^ノ被差出候^ニ付、御下知御證印濟被成下、御同人江被成御渡候段、被仰聞承知仕、則御同人^ノ到来落手仕候。

一、御手前様御儀、岡部表御用向相濟、御道中無御滯去月六日被成御帰府候段承知仕、目出度御儀奉存候。為心得被仰下

一、只之進様御儀、御痔疾^ニ而御引込^ニ付、御除名被成候段、為心得被仰下承知仕候。

一、右之外御用向之儀者御元^ノ衆^ノ可申参候条承知可仕旨被仰下、則申参候条承知仕候。

一、暑中為伺御機嫌、御領内村役人・御用働・御金用勤・其外寺社之面々追々御役所へ罷出申候。此段申上候。

一、先便當表季候之儀申上候後も弥雨天相續、いつ快晴^与も相見へ不申候。畑方諸作相痛候趣相聞へ、一統難洪仕候間、評儀之上、去月十九日^ノ洞雲寺へ申達し、五穀豊熟之御祈祷被 仰付候積取計候所、同廿日^ノ天氣立直り、廿一日^ノ快晴仕、一統相歡申候。田方植附之儀も先便申上候後、賀茂村・塩沢村も無滯相濟、皆畑式ヶ村^茂畑方手人も相濟候段届出申候。此段申上候。

一、右之通廿一日^ノ快晴續^ニ御座候処、廿五日昼後^ノ俄雷鳴強く大雨有之、一旦^ニ出水仕心配仕候処、川筋通格別之

太小山^ノ

破損等も無御座、^尤一統相歎申候。然處黒田村之儀、^別而降雨強く、山水夥敷、田面一面ニ相成、川筋土手打越、押堀^二者^一畔押崩シ、苗も流失仕候向多分出候旨届出、見分相願候^二付、^{得与承乳之上、先つ}早々^二手入^一成丈ケ尽精力成丈ケ手入仕、其上実ニ無余儀分ハ取調可申出旨申達し置候間、過半ハ手入^二而^一立直り可申哉^も奉存候。いつれ御損毛^二者^一御座候得共、何卒格別[■]多分^之義無御座候様仕度奉存候。塩沢村之儀も右同様^二而^一、水損変地出来仕候。尤是^者老ケ所^二而^一多分之儀^二者^一無御座候。尚追々取調可申上候得共、先つ此段申上置候。右黒田・塩沢・隣村吉川村^{御料所}扨者、右一旦水^二而^一大造成変地出来仕候趣相聞へ申候。先つ此方様御領分ハ格別大造成御損毛^二も^一相成不申候、[■]大悦仕候。其後照方^二相成^一、誠^二嚴暑難堪相照見申候。殊^ニ西風強く、直^{日増}田方も水拂底ニ相成、賀茂村^并下宇利・半原・中宇利^{○海乙并}溜池分水願出申候。何卒近日降雨御座候様奉祈候。此段申上候。

一、去月廿四日夜八つ時頃、賀茂村百姓八左衛門居宅^合出火仕、本家・釜家・灰部屋・屑屋・物置共焼失仕候段、村役人届出候^二付、早速見分仕、其後當人^并親類・組合・隣家・村役人一同呼出し、出火之始末吟味仕候処、全手過^二而^一、自火^二相違無御座相聞へ、且人馬怪我類焼等も無御座候旨申立候^二付、例之通取計、御届書其外一件書物相添、御元^メ衆迄差出申候間、御同人^合可被差出条、御承知可被成下候。

一、右之外今便御用向之儀ハ御元^メ衆迄申候間、御同人^合可被申上条御承知可被成下候。
右之段御受旁為可申上、如此御座候。以上。

丑六月八日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

菊 安太夫様

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

六月十五日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

菊 安太夫様

以別紙申上候。然者

日光 御祭礼御奉行被蒙

仰候ニ付、當御領分村々高役金上納方申達し置候処、當六月納之分■■■■金六拾貳兩壹朱・永貳拾八文五分五厘取立之、別紙差出證文之通、今便道中四日限を以差立申候。着之上御落手可被成下候。右差出證文之儀ハ御元メ衆迄差出し申候間、御同人ハ可被差出条、御承知可被成下候。

一、當表之儀先便申上候後、弥照方ニ相成、諸向水拂底ニ相成、田方之儀も追々千方ニ相成、村々ハ雨乞之儀、度々届出候所、去ル十二日祈雨御座候所、何分降足り不申候。尤日々催者御座候へ共、潤雨無御座候。何卒近日程能一雨御座候様仕度奉存候。且うんか之儀次第ニ相増、度々虫送り并為祈念百万遍等届出候得共、兎角退兼候ニ付、遠及秋葉山之火ヲ迎、虫送り■仕候村方も御座候而、精々尽し候得共、未退散不仕趣ニ御座候間、今少シ見合候而、上ハも雨乞并うんか消亡之御祈禱被 仰付候様ニも取計可申哉与内評仕居申候義ニ御座候。何卒近日潤雨御座候様仕度奉祈候。

一、右之外今便御用向之儀ハ御元メ衆迄申候間、御同人ハ可被^申仲条御承知可被成下候。

右之段為可申上、如斯^ニ御座候。以上。

六月十五日 兩人

菊 安太夫様

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

丑七月

橋本又兵衛
山本茂左衛門

菊 安太夫様
朝 只之進様

去月廿六日之尊書到來拜見仕候。然^者從是去々月十五日去月八日同十五日付を以進達仕候書狀相届、御披見被成下、為尊答被仰下候趣奉得貴意^候。尊答^ニ而事相濟候義^者再御受不申上候。

一、日光御用^ニ付高役金被

仰付方申渡し受證文壹通、御元^メ衆^ノ被差出、尊覽被成下候旨被仰下承知仕候。

一、賀茂村百姓八左衛門居宅^ノ出火一件御届書、御元^メ衆^ノ被差出、尊覽被成下候旨被仰下承知仕候。

一、前条日光御用高役金六拾式兩壹朱、永式拾八文五分五^リ、并御借入金式百五拾兩共差立申候所、無滞着相納候^ニ付、右差出證文式通御受取之御證印被成下、御元^メ衆^ノ被成御渡候旨被仰下承知仕候。則御同人^ノ到來落手仕候。

一、右之外御用向之儀^者御元^メ衆^ノ可申參候間、可得貴意旨被仰下承知仕、則申參候条奉得貴意候。

一、御借金式百五拾兩、内百五拾兩^著淺見与兵衛調達、百兩^著林平八・林徳左衛門兩人調達ニ付、右渡證文式通御證印被成下、御元^メ衆^分到来落手仕候。

一、高德院様御法事ニ付、洞雲寺へ相備候御茶湯料御勘定組伺書壹冊、御聞濟之御證印被成下、御元^メ衆^分到来落手仕候。

一、下宇利村百姓源六弟乙作宗門帳外伺書御聞濟之御下知書御證印被成下、御元^メ衆^分到来仕、則願人共呼出し、御下知之趣を以願之通當丑年^分宗門帳外被仰付候段申渡し、受證文申付、今便御元^メ衆^迄差出申候間、御同人^分可被差出条、御承知可被成下候。

一、當表之儀先便申上候後、潤雨無御座、一統水拂底ニ相成、田方千方も出来、其上うんかも次第ニ相増、村方^ニ而も祈禱^并水行届候分ハ油を流し抔仕、精々尽し候ニ付、上^分も雨乞^并除蝗御祈禱洞雲寺へ兩度申渡し、執行御座候処、其後降雨も有之、當時至極順氣ニ相成、一統相歡申候。うんかも此ニ薄らき候趣ニ御座候。畑方も先達中^者見直し候趣ニ付、何卒此所^ニ而一濕り御座候様仕度奉存候。去ル十七日二百十日ニ御座候処、無難靜鑑^謹ニ相濟、安心仕候。委細^者御元^メ衆^江申伸候間、御同人^分御承知可被成下候。

一、右之外今便御用向之儀ハ御元^メ衆^迄申伸候間、御同人^分可被申伸条、御承知可被成下候。
右之段為可申上、如斯御座候。以上。

七月廿二日

橋本又兵衛
山本茂左衛門

菊 御兩人様

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

八月

橋本又兵衛
山本茂左衛門

朝 菊 安太夫様
只之進様

以別紙申上候。然者當表作方之儀、先便得^{申上候}貴意候後、潤雨も御座候而、田方も見事ニ出穂仕、畑方も粟・稗ハケ成ニ取入木綿之儀も大ニ見直し候処、吹方ニ差懸り候頃ハ雨天勝ニ而、一統迷惑仕候。何れ餘程違作趣ニ相聞ヘ申候。併願筋も無御座候。大悦奉存候。先つく當年者無難ニ御收納ニ可相成与恐悦奉存候。併米

一、右之外今便御用向之儀者御元メ衆迄申上候間、御同人ハ可被申伸条、御承知可被成下候。

右之段為可得御意、如斯御座候。以上。

八月卅日

右兩人

右御兩人様

一、窺御機嫌、呈書例之文言。

九月

右兩人

朝只之進様

尊書拝見仕候。

殿様御儀去月十五日被為

召、御在所^江之御暇被為蒙

仰、恐悦之御事^ニ御座候。此段為心得被仰下承知仕候。右御受為可申上、如此^ニ御座候。以上。

九月 兩人

右御同人様

(未完)

註

(1) 石井良助・服藤弘司編『幕末御触書集成 第二卷』(岩波書店、一九九二年)、史料番号一〇六五。